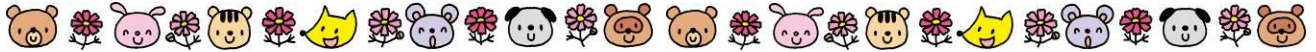




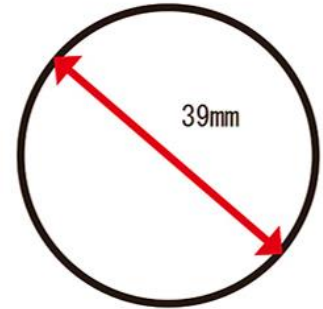
ほけんだより

2022年9月1日 富良野市立保育所



9月9日は「救急の日」です。ご家庭での事故やケガへの注意は万全でしょうか？小さい子どもは、まだ何が危険か予測することができず、好奇心旺盛で怖いもの知らずです。大人が、安全な環境を整えてあげましょう。

家の中の事故を防ぎましょう



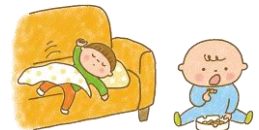
子どもにとって安心して過ごせる家の中が、実は事故の危険性が高い場所だということをご存じでしょうか？

0~6歳の子どもの事故の約40%は、家の中で起こっています。

家の中で起こる事故はさまざまですが、特に命にかかわるのが、窒息です。0歳児が圧倒的に多いものの、1歳児、2歳児でもゼロではありません。家の中を安全・安心な場所にするために、もう一度チェックしてください。

小さいものはしっかり管理

3歳の子どもの口の大きさは約4cm。これより小さなものは、子どもの手の届かないところに保管しましょう。ボタン電池、ナッツ類、たばこ、薬など、身近なものでも飲み込むと危険なものはたくさんあります。



【キッチン】
調理器具によるやけどが多い場所

【ベランダ】
落下事故につながります

【浴室】
水の事故の危険があります

【リビング】
落下や誤飲の事故が多い場所

鼻水のケアは、やさしく片方ずつ

鼻の中は粘膜に覆われていて、ウイルスや細菌、ほこりなどをキャッチして鼻水と一緒に外に追いだしています。鼻の奥は耳（中耳）とつながっています。風邪をひいたときに鼻をかむと、鼻の中のウイルスや細菌が中耳に送られ、中耳炎の原因になります。普段から、鼻水は「片方ずつ、やさしく」かむように伝えましょう。小さい子どもは上手に鼻をかめないで、こまめに鼻水をとってあげましょう。



ティッシュペーパーを半分に折り、鼻に当てます。片方の鼻の穴を軽くふさぎ、鼻から息をやさしく吹くよう声をかけます。



出てきた鼻水をつまむようにしてティッシュペーパーでふきとります。反対側のはなも同じようにかませます。



はなをかむときは、鼻水に混ざっているウイルスなどが手につきます。はなをかみ終わったら、手を洗いましょう。

鼻水が固まっている時は・・・

温かいタオルを鼻のつけ根に当てると鼻水が出やすくなります。鼻水がゆるみやすいお風呂上りに丁寧に拭くのも良いでしょう。